

中部シニアライフアドバイザー会

SLA通信

中部SLA協会 総務委員会広報部会
〒460 名古屋市中区正木1-2-8
(株)シニアルネサンス財団内
TEL 052-332-7883

それぞれの生きがい 孫娘からのラブレター～

中部シニアライフアドバイザー協会
平成7年度副会長 松村 坦

中部SLA協会も3年目を迎え、漸く軌道に乗り、一段と活発に活動を行なう体制づくりができあがりました。

かねてより研修委員会で、会員の「生涯学習」と、ボランティアの基本となる「楽しく学び合い支え合う共通の場」としての、研究部会の検討が重ねられてきましたが、昨秋、「電話相談」「人間関係」「生きがい」「年金」「遺産・相続」の5つの部会がスタートに至りました。

どの部会も、リーダー・サブリーダーを中心に、月一度の割合で、内容の濃い研究会が開かれ、3月30日の全体研修会では、その成果が披露されました。

このように、会員同志が自発的な研究と研鑽の努力をすることで、お互いの信頼感を強め、協調の精神と生きがいのほんとうの意味を、理解していただくことができたのではないのでしょうか。

平成7年度に開催した2回の全体研修会の結果、155人の会員の中で、研修会に参加できる方は50～60人ですが、中には時間をやり繰りしても複数の研究会や地域部会にも出席される方もあり、その熱意に頭の下がる思いをしました。

一方では、出席欠席の返信もなく、まったく反応のない方も15～20人もあり、同じ志を持った会員として、いささか残念に思うこともありました。

自分自身の反省もこめて、男ならば会社定年後の15～20年、その残り少ない貴重な自由時間をいかに使うか、誰のために使うのか、思い悩むことも多いのですが、その人その人によって選んだ道は違っても、その人の歩んだ軌跡が、それぞれの「生きがい」となり、「自分史」となるのだと思います。

「おじいちゃんへ

わたしはおじいちゃんが毎朝神社掃除をしている姿、アドバイザーとして活躍をしている姿、てんぶらを揚げている姿、麻雀をしている姿などが大好きです。

それと同時に、わたしも頑張らなくてはと思います。

いつまでも、そんな尊敬できるおじいちゃんにいてください。 綾より」

今年1月のわたしの誕生日に、高2の孫娘から、こんなメッセージを書いたバースデーカードが届きました。

このメッセージにありますように、時にはてんぶら料理に腕を振るいますが、そんなときには、定年前に取得した調理師資格がものをいいます。また、消費生活の通信講座で学んだ主婦感覚を生かして、自称仕入部長として魚市場に通うのも楽しみの一つです。

ぬれ落葉にもならず、わしも族にも属さず自分の60有余年の知識と経験を生かし、たとえ人数的にはわずかな対象であっても、その人々に喜びや感動を与え、共に生きていることの楽しさを実感していただければ、シニアライフアドバイザーとして本望だと思っています。

最後に、この2年間SLA活動に幹事としてお手伝いをさせていただいた感想をまとめてみました。

- (1) SLAとして自助・自立の精神が第一
- (2) 過去の経歴など、たて社会の持ち込みは不可
- (3) 人と人とのつながり、協力が一番大切
- (4) 批判は誰でもできるが、感謝はできぬ
- (5) 自分自身の健康保持（精神的にも肉体的にも）と家庭円満

平成8年通常総会決議報告

開催日 平成8年4月21日(日)
 ところ シャンピアホテル名古屋
 出席者数 43 委任状数 78

平成8年通常総会において、下記の議案が原案のとおり、承認可決されましたので、ご報告いたします。

第1号議案	平成7年度事業報告の件
第2号議案	平成7年度決算・監査報告の件
第3号議案	平成8年度事業計画案承認の件
第4号議案	平成8年度予算案承認の件
第5号議案	会則改正の件
第6号議案	平成8年度役員選任の件

以上

《平成8年通常総会の主な内容を報告します》

1. 第1、2号議案一括質疑応答の際、部会活動の経費はどうなっているかとの質問がありました。協会の予算からは通信費が手当され、運営費については自己負担との回答に対して、来期は部会活動に見合った予算編成の見直しを行ってほしいとの意見がでました。このことに対応して、第4号議案で、収支予算案は事業計画に沿って、新幹事で再検討を加えるとの提案が議長団からあり、支持されました。
2. 第3、4号議案一括質疑応答では、基金積立金とは何かとの質問があり、法人化のための準備積立金として、入会金をそのまま積み立てているとの回答がありました。
3. 第5号議案「会則改正案」では、山下副会長から次のような経緯説明がありました。

会則改正については、平成6年度末の幹事会で議題にあがり、次年度の総会で提案する方向で議論がされてきましたが、未解決で持ち越された経緯がありました。平成7年度は、3期生の入会など、人的環境も変化してきましたので、大局的な立場に立って、会則を考えようという気運が出てきました。そこで、10月の定例幹事会で、会則の見直しが議題となり、幹事会全員が考えを提出し、総務会が意見を集約、定例幹事会2回、臨時幹事会2回、計4回の幹事会の審議を経て、改正案をとりまとめました。

4. この議案では、会則30条の幹事会の決議を構成員の1/3から1/2に改正する理由が問われ、ボランティアの会という性格上、出席者の数が少なく幹事会が成立しない場合を避けるため、という回答がありました。また、少数決裁の弊害を避けるため、欠席者からは委任状が提出されているとの補足がありました。

(次頁へ続く)

5. 第6号議案、新役員選出の件では、松村副会長から次のような経緯の説明がありました。

3月18日、会員の意見を反映することを目的に、全会員に、「①立候補 ②推薦 ③幹事会一任」のいずれか1項目を選択する「平成8年度の幹事候補者選出書」を送りました。このうち、②に関しては、1会員あたり推薦は5人以内としました。その結果、①立候補者0、②推薦を受けた人数29、③幹事会一任111でした。

(詳細は下欄記載)

幹事会では選出基準を、

- (1) 推薦を受けた29人のうち、得票数の多い順に要請する
 - (2) 研修会、部会活動への出席率のいい方
 - (3) 居住地区が、名古屋に近い方(幹事会などへの出席の負担を考慮)
- の3項目にしほり、山下、松村副会長が、電話で各自に要請をしました。

平成8年度の幹事・監査は下記の方々に決まりました。

幹事	会長	亀井省三			
	副会長	久野ふさ子	梨本將代	保坂正子	
	書記	渡部 勝	大橋満里子		
	会計	成田明夫			
		畔柳路子	後藤雅子	松井京子	
		水野愛智子	山口弥生		
監査		油田淑子	木村利行		

平成8年度幹事候補者選考結果

	発送 総数	回収 総数	立候補	推薦 (1~5人 以上)	幹事会 一任	棄 権	推薦を 受けた 人数	該当外 推薦 (幹事2年 以上)
2期生	91	79	0	14	62	3	17	5
3期生	64	54	0	5	49	0	12	—
計	155	133	0	19	111	3	29	5

なお、総会の司会進行 松村坦、議長団 長計、加藤清、議事録署名 田中照夫
今泉治子、報告者 山下可子、浅野澄子、深見正子でした。

総会、記念講演に続いて、同ホテルで懇親会が開かれました。

外山晴美さんの開会のことば、新年度の会長 亀井省三さんの挨拶、河合財団事務局長の乾杯の音頭に続き、司会者が、

「みなさんお一人、6人以上の方とお話をしてください」

と呼び掛けました。

これは喜多村財団会長が記念講演で話されたボケ防止法の一つを、早速、松村副会長が引用したわけですが、このことばをきっかけに、急に会場の雰囲気や和みました。

短時間でしたが、なんとか6人以上の人々との交歓も果たせ、バイキングスタイルの料理も飲物も堪能でき、山下副会長が、童謡詩人金子みすゞの詩の心を引用して、「みんなが、それぞれ違っているから、それぞれにいいのです」と締め括り、新年度の出発にふさわしい懇親会は閉幕しました。

平成8年通常総会記念講演要旨

今年度の総会では、財団の喜多村会長に記念講演をお願いしました。ジェロントロジーからとらえた現代社会の姿や会長の生きがい論など、興味深い内容でした。

「シニアの挑戦」

(財) シニアルネサンス財団会長 喜多村治雄氏

今、世の中は変革の時代である。よくみると、じっと止まっている所もあるように見えるが、これは、地球の自転のようなもの。変革の真っ只中にいると、動いてはいないように見えるのである。

300年前、元禄の時代に文化、経済の栄華はピークに達したが、あの時代を境に、人口の増加がとまり、経済成長も停止した。現代は元禄時代によく似ている。

今、豊かな社会で未経験な多くの人口問題が起きている。第一に、わたしたちの活力の象徴であった人口の増加率が下がりはじめた。今日では年30万人増にとどまり、厚生省の推計では、総人口は2011年をピークに減少をはじめ、2074年には1億人を割る。次に、平均寿命が延びた。1993年の平均寿命は、女性82、51。男性76、25歳。半世紀の間に25年も延びたことになる。

高齢者層が多数派層となり、通常人層となった今、高齢者たちに対する社会の評価は一変した。すなわち、保護の対象ではなく、自立して然るべしとされるようになった。自立とは、尊敬でも哀れみでもなく、ともかく自分で生きてくださいということである。シニア期をよりよく生きるための手段として、健康保持や経済力の保全は不可欠であるが、よりよく生きることそのものとして、われわれは生きがいを求める。

生きがいは、自分で考えるしかない。しかし、人間が社会的動物であるかぎり、生きがいは社会の中で感じるもの。人から受ける評価によって、生きていてよかったと思える心の状態ではないか。そういう意味でも、人との関係を深めることが必要である。

さて、ボケもせず健康でいきいきと暮らし、“ストンと逝く”にはどうしたらよいか。医学博士林謙氏(ペンネーム木々高太郎)の提言をここにあげる。

- ① 1日6人、家族以外の人とちゃんとしたことをしゃべろう。
大きな声で、あたりかまわずしゃべりなさい。
- ② 活字を読もう。テレビをみるな。ラジオはよい。
- ③ 一日になんでもいいから書こう。



新刊紹介

いきいき後期人生への知恵

「シニアの挑戦」

喜多村治雄著

現在、多くの人びとは昔と違って、問題意識をもち人生勉強を真剣に行なっている。たとえば、私が所属している「シニアルネサンス財団」の活動に参加しているシニア・ライフ・アドバイザー(SLA)の人びとの向学心・勉強努力には、頭が下がる以上にその迫力に驚く。それは例外ではなく、いま多くのシニアの人びとがそれを始めだしたのだ。この本は、そうした人びとに対して何ほどか役に立つ向学の材料を提供しようとしたものである。また、実際に役立つものと自負している。

「シニアの挑戦 はしがき」より

発行所 同友館
定価 2,000円



財団法人シニアルネサンス財団近況報告

平成8年通常総会にて

(財)シニアルネサンス財団
事務局長 河合 和氏談

電話相談 一日一人に……

現在、東京で行なっているシニア商品研究会が、いよいよ活発に動きだした。会員企業から、コンフィデンシャルな委託もあり、SLAがプロジェクトチームを組んで研究活動を報告。かなりの評価を得ている。今は東京でかたちづくりを急いでいるが、名古屋でもいずれば実行したい。

4月から電話相談業務は、一日一人となった。財団法人は金利によって運営されているのであるが、ご存じのような低金利時代のため、厳しい状況だ。その影響もあって、不本意だが、一日一人にせざるを得なくなった。そうした実情の中でも、より充実した相談業務はどうあるべきか、協会の中にも電話研究部もあるなので、その方と連絡しあいながら、よい方法を探っていきたい。

また、財団の事業としては、SRクラブが昨7月にスタートをした。この会については別の機会に場を設けて、皆様に細目と協力を呼び掛ける予定だが、このクラブでのSLAの活動を期待している。

SRクラブでは、7月にシニアアートフェスティバルを電気文化会館で開催。経済企画庁、愛知県、名古屋市、中部日本新聞社の後援を得て、中高年者の余暇活動を発表する場とする。いずれば芸術活動全般の芸術祭に育てていく青写真もあるので、参加をお願いする。

平成7年度 幹事会開催の主な活動

6月25日	平成7年通常総会
7月9日	第1回幹事会
10日	会員名簿発行
31日	SLA通信vol. 3発行
8月12日	第2回幹事会
9月3日	電話相談実務研修会
4日	談話室開催
22日	第3回幹事会
30日	研究部会合
10月2日	創立1周年記念懇親会
8日	第4回幹事会
9日	談話室開催
13日	県高齢者相談機関連絡会議
31日	SLA通信vol. 4発行
11月6日	談話室開催
18日	第5回幹事会
26日	地域部会全体会議
12月4日	談話室開催
17日	第6回幹事会
1月8日	談話室開催
15日	幹事・研究C会リーダー・地域部会リーダー合同会議
30日	第7回幹事会
	第2回全体研修会
	SLA通信vol. 5発行
2月5日	談話室開催
17日	第8回幹事会
19日	老人保健施設あうん見学会
3月4日	談話室開催
16日	第9回幹事会
17日	臨時幹事会
26日	特養ホームザンビレッジ見学会
30日	第3回全体研修会
4月1日	次年度幹事候補者名簿作成
	会計監査
	談話室開催
3日	臨時幹事会
21日	平成8年通常総会

☆ ☆ ☆
広島でSLA養成講座
 — 山下可子さん、講師に —

(財)シニアルネサンス財団では、3月に平成8年度のシニアライフアドバイザーの養成講座を、広島で開講しました。受講生55人、会場は広島YMCA学園でした。中部SLA協会副会長 山下可子さんは、財団の要請をうけて、この講座の講師として、3月23日、「シニア生き生き教室のすすめ」と題して講義をされました。初年度に、中部SLA協会が実施した「シニア生き生き教室」の実践例をあげて、「継続は力なり」をキーワードに、受講生の将来の活動に有意義な内容の講義が展開されました。なお、6月に福岡、秋に岡山でも講義の予定です。

☆ ☆ ☆

研修委員会報告



第2回全体研修会

1月30日(火)
高砂殿名古屋駅前店

講演会

演題 「愛知県における高齢化社会の現状と対策」
講師 愛知県民生部高齢化対策室 室長補佐 加藤勝彦氏

出席者に配布された平成7年度版「高齢者福祉ガイドブック」をテキストに、愛知県の福祉全般にわたって現状の説明を受けましたが、相談業務に直接役に立つ内容でした。講演後の質疑応答も活発で、会員の熱意が伝わる会になりました。出席者は46人でした。



第3回全体研修会

3月30日(土)
名古屋市女性会館視聴覚室

【 研究部会発表会 】

会は松村研修委員長の司会により、長会長の挨拶で始まり、5研究部会が半年間自主的に勉強した成果を、各30分の持ち時間で、それぞれの発表スタイルで行ないました。

正午から1時間は、花見弁当と見紛うような美しい割子の昼食をホットな烏龍茶と頂きながら、会員同志の交流もにぎやかに、楽しい昼休みとなりました。出席者は51人でした。

電話相談研究部会

木村秀子さんから、「電話相談部会の概要」として、部会の目的と6回の例会について詳しい説明がありました。続いて保坂正子さんが、「電話相談の現状と課題」を発表。今後の課題として、

- ①他団体との情報交換
- ②相談内容をしぼる
- ③お年寄りの心の拠り所となる「シニア心の電話室」としてはどうか

という提案がありました。

伊藤千賀子さんは、「ケーススタディー」について4件の事例を提示し、このうち1件の事例に関して詳しく分析、アドバイザーとしての答えを探りました。最後に原健一さんから、電話相談事業の活性化についての提言がありました。

人間研究部会

「心の問題」を中心に、アドバイザーとしての資質の向上を図ることを目的に進められた研究会として、自主カウンセリング研究所主宰 金内茂男氏の講演記録「やわらかな人間関係の在り方を求めて」について、浅野澄子さんが感想を述べました。また、外山晴美さんが、「人間関係について思うこと」と題して、城山三郎と早坂泰次郎の著書を引用して、人間関係の大切さを語り、最後に成田明夫さんが、ビデオ「僕はシニア体験団」の中での堀田力弁護士の話と、女優草笛光子氏の講演の内容を参考に、高齢期の生き方について発表。話し掛けるような口調に、会場が和みました。

生きがい研究部会

最初に木村利行さんが、研究部会のねらい、研究の方法と経過、内容について、7回にわたる例会の説明がありました。次いで、畔柳路子さんから、「男女共同参画社会をめざす昭和区民のつどい」に参加した報告がありました。そしてまとめとして、リーダーの亀井省三さんが、「生きがい概念」の実態を知ることができたが、生きがいはそれぞれの人によってさまざまで、一概に括することはできない。そして、今後の課題として、

- ①研究テーマを含んだ年間計画の確立
- ②研究を進めるための組織づくり
- ③他の部会と交流し、情報交換の中で成果をあげたい

と結び、研究部員が生きがいについて学んだ、参考書籍の一覧表が配布されました。

年金研究部会

「学習会の進め方とその内容」を川岸恒子さんが説明。次に、「年金制度のあらまし」を後藤雅子さんが系統立てて話しました。続いて大橋満里子さんが、「年金制度のかかえる問題」を、色々な角度から指摘、問題を投げ掛け、最後に、藤村悦子さんが年金制度における矛盾点などについて、外国の制度も引用しながら、発表しました。

遺産・相続研究部会

リーダーの小山静子さんを中心にして、松田洋子さん、橋本陽子さん、長坂朋子さんがパネルディスカッション方式で、電話相談で扱った相続に関連した事例をとりあげて討論しました。法定相続人の問題では、夫と先妻の子供の相続権の問題をはじめ、養子縁組の有無や相続放棄の取消しの可否など、かなり専門的な事例を討議し合い、結論をリーダーが説明、よく理解できました。

《5研究部会とも日頃の勉強に加えて、発表のために時間を計りながら、原稿の下読みなどの練習もずいぶんご苦勞をかけましたが、その成果が表れ、研究発表はすばらしかったと思います。時間も正確に与えられた範囲内に収めて頂いたので、質疑応答も十分にできて、予定どおり午後3時に終了しました。発表された皆さんと研修会開催のためにご助力頂いた方々に厚くお礼申し上げます。 研修委員長 松村 坦》

愉快で、たくましく、そして優しい…… オーストラリアの高齢者達と交流して

亀井省三

昨年8月、名古屋市から派遣されて、高齢者団体との交流のために、オーストラリアを訪れた。タイトルの“愉快で、たくましく、そして優しい”は、その折りに、むこうの高齢者から受けた強い印象の一端である。

なぜ、こうした印象を受けたのか——その背景にはいくつかの理由が考えられるがその一部を紹介したい。

ひとつには、交流した「U3A」という高齢者団体には、自分たちの組織は自分たちで作っていくという強い意識が、共通して見られたことが挙げられる。

例えば、生涯学習講座では、自分が学習したい講座名を提出し、同時に、自分が指導できる講座も登録する。この両者の要望が合致したとき、講座がスタートをする形式がとられていた。

ドイツ語の講座では、ドイツからの移民が20余名にドイツ語を教えていたが、彼女は他の講座では、受講生になっていた。

つまり、ほとんどの講座が、「この指、止まれ方式」で、予め決められた「パッケージ方式」の講座に参加する形ではなかった。

そのためか、どの講座も欠席者は僅少で、同時に、何らかの理由で欠席した時には、テレ・コンファレンスという、電話で受講できるシステムもあるということだった。これは、電話料金が時間制限もなく、極端に安いからこそ、可能なことだろう。

彼らが、「高齢者の高齢者による高齢者のための組織」と自負するの、大いに頷くことができた。

また、高齢者たちはとても開放的だった。オーストラリアでは、かつて白豪主義という有色人種の移民を排斥する政策がとられていた。30年前、この制度が撤廃され、多くの移民を受け入れるようになり、多文化主義となった。この結果、一つ概念だけに限定できない全体的で包含的な考え方が、必要とされるようになった。彼らが開放的なのはそういった歴史的背景もあるといえよう。

ある絵画教室を参観した折、わたしが近くにあって画用紙に、水彩色鉛筆で即興的に花のスケッチをしたところ、女性の受講者に、「わたしの絵と取り換えないか」と声をかけられ、交換をした。彼女の絵は、今もわたしの部屋に飾ってあるが、その美しい色彩の花の絵を眺めるたびに、彼女のあけっぴろげの明るさを思い出す。

滞在中、二日続きのパーティーで、ある団体のチーフと2晩とも顔を合わせた。よくみると同伴の女性が前の晩と違っている。

「昨日の女性は？」
とそっと尋ねると、
「昨日はわたしの秘書。今日はGF（ガールフレンド）」

と愉快そうに笑った。
彼はわたしたちの女性派遣団員に、必ず軽く抱擁をして挨拶をしたので、みなさん思わず照れて、かたくなるというほほえましい光景もあった。豪州の男性の巧みな演出とでもいおうか、脱帽である。

さて、この期間中にオーストラリアの高齢者たちに、「何に生きがいを求めているか」を尋ねてみた。上位6位までを記してみると

- ①旅行
- ②趣味
- ③学習
- ④子供、孫の成長
- ⑤伝統・文化の継承
- ⑥ボランティア

だった。帰国後、日本の高齢者にも同じ質問を向けたところ、

- ①趣味
- ②友人との交際
- ③旅行
- ④学習
- ⑤子供、孫の成長
- ⑥スポーツ

との結果がでた。国情と高齢者のおかれている位置がうかがえる一面である。

“愉快で、たくましく、そして優しい”
この生活態度はこれからの日本の高齢社会でも必要条件であると思う。オーストラリアでは、この他にまだまだ多くのことを学んできたが、向うで培った新たな人生観を、今後のSLA活動でも、ぜひ生かしていきたいと思っている。

編集後記

新緑の季節。陽光を透して微風に揺れる若葉に、生命の息吹を感じます。このSLA通信を通して、「日々新たに」常に周りを初々しい心で見えてゆくことの大切さを、お汲み取り頂ければ幸いです。ご協力ありがとうございました。平成7年度総務委員会